

# 2023 年度事業計画

公益財団法人竹中育英会

## 【公1】教育・研究への助成事業

### 1. 国内奨学生に対する助成

#### (1) 奨学生数と給付金額

##### 1) 学部2年次採用の奨学生

###### ・2023年1月～2023年3月

2022年より継続の大学生115名、大学院生49名（修士42名 博士7名）、計164名

###### ・2023年4月～2023年12月

大学生120名（継続80名 新規40名）、大学院生57名（継続33名 新規24名）、計177名

###### ・給付月額

大学生、大学院生ともに80,000円

##### 2) 博士課程進学時採用の奨学生

###### ・2023年4月～2023年12月

2022年選考の新規博士課程奨学生6名

###### ・給付月額

100,000円

#### (2) 新奨学生の選考

・大学新規奨学生40名、大学院生（大学奨学生より進学した学生）24名を採用予定。

・指定20大学より推薦を受けた新2年生各2名、及び当会大学奨学生から大学院に進学した学生を対象に、5～6月、選考委員会による書類選考及び面接選考を行い、採用者を決定する。

・指定大学の修士課程2年次生を対象に、選考委員会による書類選考及び面接選考を行い、博士課程進学予定者6名を決定する。なお、奨学金の支給は博士課程進学時の2024年4月より行う。

### 2. 海外留学奨学生に対する助成

#### (1) 奨学生数と給付金額

・2018～2021年選考の継続奨学生15名、2022年選考の新規奨学生3名、計18名

###### ・給付年額

4,500,000円を上限とする。

#### (2) 海外留学新奨学生の選考

・指定6大学および当会国内奨学生より応募者を募り、選考委員会による書類選考及び面接選考を行い、3～5名で内定者を決定する。

・留学先大学決定後、本決定とする。

### 3. 奨学金総額

233,770,000円

#### 4. 奨学生に対する支援

##### (1) 行事の開催

奨学生相互の親睦を促進するとともに財団関係者・大学関係者・奨学生OBとの交流を目的に、以下の行事を開催する。

- ・卒業奨学生歓送会（大阪・東京にて開催、3月）
- ・新奨学生歓迎会（大阪・東京にて開催、10月）
- ・各大学の集い（大学毎に年2回開催）
- ・大学間の集い（適宜）

##### (2) 学生寮の設置・運営

- ・所在地 東京都練馬区中村北2丁目9番4号
- ・施設 鉄筋コンクリート+木造2階建、延711.61㎡
- ・収容可能数 20名
- ・寮費 食費のみ

##### (3) 奨学生OB組織（竹門会）に対する支援

- ・活動の機会と場を提供する。
- ・奨学生の集いへの参加を要請し、現役奨学生との交流を促進する。

#### 5. 研究者に対する助成

##### (1) 建築研究助成金の交付

- ①対象者 大学院生で無所得の研究者
- ②募集方法 研究課題の募集を日本建築学会に依頼し、同学会の機関紙「建築雑誌」及びHPを通じて募集する。
- ③選考方法 応募課題を研究助成選定委員会にて審査し決定の上、その結果を日本建築学会の学術推進委員会に報告する。
- ④助成件数 10件
- ⑤助成金額 1件500,000円 総額5,000,000円
- ⑥成果報告 応募1年後に、研究論文等の提出を求め、研究成果を確認する。

#### 6. ハンディキャップフィールドに対する助成

##### (1) 学校法人日本聾話学校

- ・助成対象 聴力・言語教育方法・施設・設備・器具の研究
- ・助成金 年額350,000円

##### (2) 社会福祉法人無憂園

- ・助成対象 教育設備等への支援
- ・助成金 年額300,000円

## 【公2】文化及び芸術の振興を目的とする事業の実施及び支援

### 1. 展示事業の実施

文化・芸術事業選定委員会により審査・選定された展示会（1）（2）を主催する。また、2021年に審査・選定され、2022年12月から2023年3月に開催する展示会「月で暮らそう、月で遊ぼう 重量1/6のワンダーランド展」について2023年度の発生費用2,734,497円を本年度の予算に計上する。

#### （1）百の診療所よりも一本の用水路を 医者・用水路を拓く、中村哲の挑戦

##### ① 内容

医師としてアフガニスタンに赴任していた中村哲は、“百の診療所より一本の用水路”の有用性を説き、16年以上の歳月をかけてクナル川から用水路を引き、干ばつで砂漠化した台地に緑を蘇らせる偉業を成し遂げた。このガンベリ砂漠に注ぐ用水路が運ぶ水は、乾いた荒野を生命の大地に変え、多くの住民が帰農することにより農地が蘇り、約65万人の命が救われたという。本展では、中村哲の体験を通して残した言葉とともに、自然に生かされる人間がこの大地に生きるものとしての分限をどのように知るのか、ということの中村の人生を掛けた事業を通して考えたい。

##### ② 展示日程（予定）

2023年3月～2023年5月 於：ギャラリーエークウッド

##### ③ 予算 9,983,000円

#### （2）本のある風景 ―公共図書館に起きている変化と可能性―

##### ① 内容

『あなたが絶対に知るべき唯一のものとは、図書館の場所である』（アインシュタイン）  
私たちは幼少から本に触れ、読書への欲求の広がりとともに、家庭内から学校の図書室、公共の図書館へと行動範囲を広げてきた。図書館は本や情報を無料で貸し出すほかに、調査研究機能を有する施設もあるが、主に「情報のハブ」としての機能を担ってきた。  
近年、その役割は「地域づくりのハブ」へと拡大し、人と人、組織と組織の結節点としての役割を担う事例も増え、欧米の顕著な活動成果が伝えられている。  
公共図書館が市民社会における情報インフラとして果たすべき役割とは？実践と理念が交錯する欧米の事例、日本での意欲的な取り組みを紹介しながら、公器としての図書館の役割、可能性、そして建築としての価値について考えてみる。

##### ② 展示日程（予定）

2023年 未定 於：ギャラリーエークウッド

##### ③ 予算 9,660,000円